

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立清原南小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 63人

② 算数 63人

5 留意事項

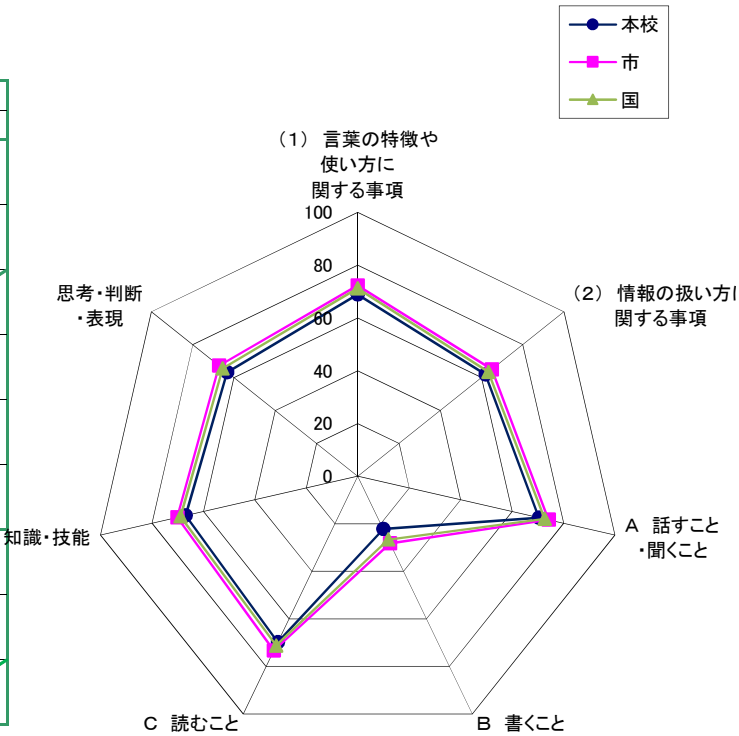
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立清原南小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	68.9	72.3	71.2
	(2) 情報の扱い方にに関する事項	61.9	65.0	63.4
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	70.4	74.2	72.6
	B 書くこと	22.2	28.2	26.7
	C 読むこと	69.8	73.3	71.2
観点	知識・技能	66.9	70.2	68.9
	思考・判断・表現	63.3	67.2	65.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

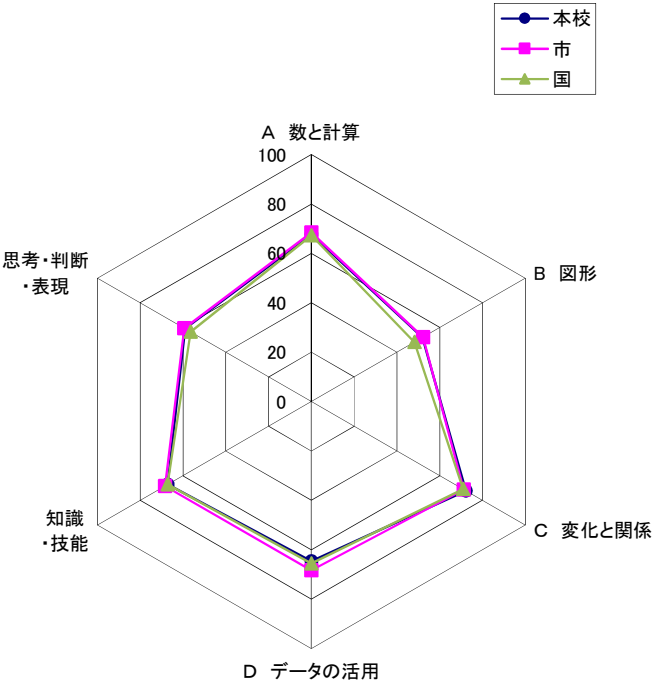
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方にに関する事項	●平均正答率は68.9%で、市の平均正答率より3.4ポイント下回っている。 ●漢字を書く力は身に付いてきているが、同音異義語の理解については、課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・AIDドリルなども活用して繰り返し練習したり、確認テストなどを実施したりして基礎基本の定着と習熟を図る。 ・授業の感想や振り返りを書く場面などで、漢字を使って書くことを意識させるとともに、辞書などを活用し、適切な言葉を身に付けられるように指導する。 ・日常生活の中で、相手や場面に応じて丁寧語、尊敬語などの敬語が適切に使えるように、機会を捉え指導する。
(2) 情報の扱い方にに関する事項	●平均正答率は61.9%で、市の平均正答率より3.1ポイント下回っている。 ○語句と語句の関係を捉え理解する力は身に付いている。 ●様々な情報の中から、原因と結果などの関係を見だし、結び付けて捉えることは不十分である。	・説明文の学習では、書き手の意図を捉えられるように、語句と語句を関連付けながら読んだり、文章の構成を考えたりする学習活動を取り入れていく。 ・原因と結果の関係については、理科や社会科、総合的な学習の時間とも関連付けて、取り組むようにする。
A 話すこと・聞くこと	●平均正答率は70.4%で、市の平均正答率より3.8ポイント下回っている。 ○話の趣旨を捉え、自分の知りたいことを質問することができている。 ●目的や意図に応じ、話しの内容を捉え、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめることに課題が見られる。	・話し合いの場面では、質問するだけに終始せず、質問して分かったことを基に自分の考えを表現できるように指導する。 ・話し合いの目的や方向性を明確にするようにしてから話し合いを始めるようにするとともに、互いの意見の共通点や相違点など、様々な視点から検討したことを基に、自分の考えをまとめることができるようにする。
B 書くこと	●平均正答率は22.2%で、市の平均正答率よりも6.0ポイント下回っている。	・豊かな生活体験を基に、感想や考えなどを表現する活動を積極的に取り入れる。 ・引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表す活動を設定する。
C 読むこと	●平均正答率は69.8%で、市の平均正答率よりも3.5ポイント下回っている。 ○目的に応じて、文章と図表を結び付けるなどして必要な情報を見付けることができている。 ●文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることに課題が見られる。	・学校図書館などを利用し、様々なジャンルの読書に取り組みせ、文章に親しむ機会を増やす。 ・文章の内容や構成を捉え、読んで理解したことを、自分の知識や経験と結び付けて表現する活動を設定する。 ・説明文などを読む際に、内容の中心となる語や文を意識させたり、文章と図表など必要な情報と結び付けて考えたりするように指導する。

宇都宮市立清原南小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	67.7	68.4	67.3
	B 図形	52.0	52.2	48.2
	C 測定			
	C 変化と関係	72.2	71.2	70.9
	D データの活用	64.6	68.3	65.5
観点	知識・技能	67.2	68.4	67.2
	思考・判断・表現	59.0	59.4	56.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	●平均正答率は67.7%で、市の平均正答率より0.7ポイント下回っている。 ●()を用いた式や加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ったり、計算のきまりを使って計算したりすることに課題が見られる。	・計算の順序やきまりを使ったり、空位のある整数の乗法では位に気を付けたりして正しく計算ができるように、AIDリル等を活用して繰り返し練習問題に取り組み、基本的な計算の定着を図る。 ・問題場面の数量の関係を捉え正しく立式できるように、様々な問題に取り組みせるとともに、個の力に応じて習熟度別学習の充実を図る。
B 図形	●平均正答率は52%で、市の平均正答率より0.2ポイント下回っている。 ○テープを直線で切ってきた高さの等しい二つの三角形の面積の大小について、底辺と面積の関係をもとに説明することができている。 ●正方形の意味や性質についての理解は、やや不十分である。	・図形を構成する要素に着目して、図形の意味や性質を基に、作図の仕方を多様に考えることができるようにする。 ・角の大きさに着目し、作図の手順からできる図形を予想したり、実際に作図したりして、図形の特徴について理解を深める指導をする。 ・作図の仕方を筋道を立てて説明する活動を授業に取り入れる。
C 変化と関係	○平均正答率は72.2%で、市の平均正答率より0.1ポイント上回っている。 ○伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係ではないことを説明するために、表の中の適切な数の組を用いる問題では、平均正答率が92.1%で、県の平均正答率より4.8ポイント上回っている。 ●伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを記述することに課題が見られる。無回答率は4.8%で、県平均より1.3ポイント上回っている。	・日常生活の中で、二つの数量の関係を表す数である割合が変わらないことを体感できる活動を多く取り入れる。 ・具体的な場面と関連付けながら割合について理解を深めたり、図を使って数量の関係を捉えて式を立てたりすることができるよう、指導の充実を図る。 ・伴って変わる二つの数量の関係を表に整理し、一方の数量のみに着目するのではなく、二つの数量がどのように変わっていくかに着目し、比例の関係を捉えたとともに、考えを友達に説明したり、共有したりするなど、学び合いの活動を取り入れる。
D データの活用	●平均正答率は64.6%で、市の平均正答率より3.7ポイント下回っている。 ○「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることができている。 ●二次元の表から、条件に合う数を読み取るなど、データを二つの観点から分類整理することに課題が見られる。	・日常生活の中で、必要なデータを集め、観点を決めて整理し、目的に応じてデータの特徴や傾向を考察できるような活動を取り入れる。 ・得られた結論について、その目的に応じて異なる観点や立場から多面的に考察する場面を設定する。

宇都宮市立清原南小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○基本的な生活習慣等に関する質問では、朝食を毎日食べていると答えた児童が98.4%で、県の割合より3.8ポイント上回っている。今後も、学級懇談や各種だよりなどを通して、継続的に基本的な生活習慣の大切さを啓発し、家庭での協力が得られるようにしていきたい。

○「あなたの学級では、学校生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」や「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」の問題の肯定的回答をした児童の割合は、県の割合をいずれも上回っている。今後も、道徳や学級活動等において、児童が主体的に課題解決を図る授業を展開し、他者の考えを聞き自分の考えを深めたり、広げられるたりするようにしていきたい。また、話し合いの結果をもとに一人一人が行動を促していくことで、自分たちのよりよい生活と話し合いがつながっていることを実感できるようにしていきたい。

○「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の問題では、肯定的回答をした児童の割合が98.4%と、県の割合より4.9ポイント上回っている。今後も日常的に児童のよい行動を称賛することで児童のよさを認めるとともに、教育相談の際に具体的に良さを伝えて、児童自身が自分のよさを実感できるようにしたい。また、学級活動等で友達のよさに気付かせる活動を設定することで、児童一人一人が居がいのある学級づくりをしていきたい。

●「国語の勉強が好き」の質問に肯定的回答をした児童の割合は49.2%で、県の割合を15.7ポイント下回っていて、「算数の勉強が好き」の質問に肯定的回答をした児童の割合は54.0%で、県の割合を8.6ポイント下回っている。しかし、「その教科の学習は大切だと思いますか」や「その教科で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立ちますか」の質問には、両教科とも、肯定的回答をした児童が95%を上回っている。今後は、児童の実社会や実生活に関連した課題の提示や発問の工夫をしたり、ペアやグループ活動など交流して課題解決に取り組めるようにしたりして、児童が意欲的に学習に取り組めるようにしていきたい。

●「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか」の問題では、週3回以上使用していると回答した児童の割合が33.3%で、県の割合より28.4ポイント下回っている。また、「学習の中でPCやタブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」の問題に肯定的回答をした児童の割合は94.1%で、県の割合を6.9ポイント上回っている。今後は、積極的にICT機器を活用し、主体的・対話的な授業を展開していきたい。

●「学校の授業時間以外に、普段、1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか」の質問では、1時間以上勉強していると回答した児童の割合が、平日、休日のいずれも50%を下回っており、県の割合よりも10ポイント以上下回っている。今後は、継続的に自主学習に取り組んでいる児童を称賛するとともに、自主学習カードを活用したり、友達の良い取組を紹介したりしながら児童一人一人を励ますとともに、家庭学習ががんばり週間の実施や学級懇談や各種だよりを通して、家庭学習の定着が図れるように働きかけていきたい。

宇都宮市立清原南小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
ICT等を効果的に活用した学習活動の充実	児童が自らの課題を解決するために、一人一台端末や図書等を活用し、情報を取捨選択したり、発信・共有したりすることで思考を深め、主体的に取り組むことができるように学校全体として取り組んでいる。	PC・タブレットなどのICT機器の活用についての質問では、県、全国の割合を下回る結果となった。また、「課題解決に向け、自分で考え、自分から取り組んでいたか」や「総合的な学習の時間で、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組めたか」など、主体的な学習活動についての質問において、肯定的回答をした児童の割合も、県の割合を下回っている。
児童同士の協働的な学び合いを通した思考力の向上と教師のコーディネート意識した授業の展開	根拠を基にした自分の考えをもち、教師のコーディネートによって、児童の考えを深めたり広げたりすることができるような授業の実践を行っている。	「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができるか」や「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している」の質問に、肯定的回答をした児童の割合は、どちらも県の割合を下回っている。話し合い活動や自分の考えを相手に分かりやすく伝えることに、苦手意識を感じている児童がいることが分かる。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科では、「書く」問題で解答しなかったり、途中であきらめたりする児童の割合が県の割合よりも高く、自分の考えをまとめ、書くことに課題が見られた。	各教科の特質に応じた言語活動の充実	・各教科の特質に応じて思考、表現する場面や、めあてに即して振り返る場面など、書く機会を設定し、言語活動の充実を図るようにする。 ・主体的に書くことができるように、児童の興味・関心を生かした課題を工夫する。 ・書いた文章を友達と読み合う活動を取り入れ、推敲する力を身に付けるようにする。
友達との伝え合いや学び合いを通して、自らの課題を解決したり、友達と自分の意見を比べながら考えを広げたり、深めたりすることに課題が見られた。	協働的な学びの充実と教師のコーディネート力の向上	・学び合い高め合う場面を意図的に設定し、自分とは異なる考えに触れるようにする。 ・一人一台端末を効果的に活用するなどの授業展開の工夫を行う。 ・教師のコーディネート力を高め、自分の考えを深めたり、広げたりすることができるよう「学習の個性化」を図るようにする。